

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 32 号

急性期病院における看護師へのニーズアセスメントに基づく転倒予防教育プログラムの開発と評価

(Development and evaluation of fall prevention education program based on needs assessment for nurses in acute care hospitals)

馬場 由美子 (ばば ゆみこ)

博士 (看護学)

論文内容の要旨

【目的】

【初心者】【新人】【一人前】【中堅】【熟練】の5段階で訪問看護師のキャリアを捉え、新人訪問看護師から中堅訪問看護師に至る成長過程を基盤とし、特に一人前訪問看護師から中堅訪問看護師になるために有用な教育支援プログラムを開発する。

【方法】

研究Ⅰ：中堅訪問看護師 13 名に半構造的面接を実施し、中堅訪問看護師への成長にかかわる経験を質的記述的に分析して、新人訪問看護師から中堅訪問看護師への成長過程を明らかにした。研究Ⅱ：研究Ⅰの結果のうち一人前から中堅訪問看護師への成長過程に基づき、中堅訪問看護師に必要とされるコンピテンシーを抽出し、ルーブリック表を作成し、各自のレベルに対応した教育支援プログラム試案を作成した。研究Ⅲ：プログラム試案を訪問看護ステーション2カ所で実施し、プログラム前後の訪問看護実践能力評価と終了時面接から効果を評価し、またプログラム試案の形成的評価を行った。

【結果・考察】

一人前訪問看護師から中堅訪問看護師への成長過程として経験される【先輩をモデルとして試行錯誤しながらの成長】【訪問看護師が安心できる環境の獲得】【専門職へのケアについての相談とその学び】【多職種連携の習熟】【適切な訪問看護実践過程の構築】【訪問看護の醍醐味の認識】を基に、在宅看護実践、対人関係、マネジメントに関する28コンピテンシーを抽出し、それを獲得するまでの4段階をルーブリック表に表現した。本プログラムは、一人前訪問看護師が到達度評価基準を参照し、個別の課題から学習目標を設定し、4週間の実務に取り組むOJT (on-the-job training) である。本プログラムはワークシートに沿って進められ、研究者から開始前、中、後の面接、必要な知識に関する支援を受ける。試行の結果、評価基準によって各自が到達段階の確認、および成長していく上での次なる課題の見極めができていた。また、管理者は訪問看護業務の幾つかの側面毎に到達度を上げられるような環境調整が重要であることを改めて認識していた。

【結論】

ルーブリック評価に基づいた到達度評価基準は、一人前訪問看護師本人だけでなく管理者にとっても指導にあたる上での指針となっていた。プログラムの試行により、訪問看護師の背景が多岐に渡ることが再確認でき、個別にプログラムを組み立てるパターンメードの方式や日々の訪問看護実践の中で自分の課題に取り組むOJTの形態は有意義であると考えられた。